



開学 100 周年に向けて

生涯学びを楽しむ

Enjoy Learning for Life

2016 年度 事業計画書

学校法人 名城大学



目 次

トップメッセージ	1
I MS-26（2015年度～）戦略プラン	2
II MS-26に基づく事業計画	4
(1) 名城大学における優先課題	4
(2) 名城大学附属高等学校における優先課題	4
(3) 2016年度事業計画の施策	5
1) 「人材の確保と育成」分野	5
2) 「教育の充実」分野	5
3) 「研究の充実」分野	6
4) 「社会貢献」分野	6
5) 「組織・経営改革（組織・体制整備）」分野	6
III 中期事業計画（2015年度～2018年度）	8

トップメッセージ

学生・生徒の人生を見据えた教育を
Enjoy Learning for Life



理事長 小笠原 日出男

現在、少子高齢化による生産年齢人口の急減、グローバル化に伴う地球的規模の問題の顕在化、地球環境の悪化など、急速に社会環境が変化するなか、社会が求める人材も多様化、高度化してきています。

そうした中、本学では、立学の精神である「穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」を普遍的理念と位置付け、今まさに社会が求めるバランス感覚と実行力を兼ね備えた人材の育成に努めてきました。2004年には、2015年を目標年とする「学校法人名城大学における基本戦略について (Meijo Strategy-2015)」(MS-15と通称) を策定し、掲げるビジョンの実現に向けて取り組んできました。その成果は、2014年度学部卒業生の実就職率において、卒業生2,000名以上の全国私大5年連続トップ、2015年にはリクルート進学総研調べの「志願したい大学ランキング（東海エリア）」において2年連続1位になるなどの形で表れてきました。附属高等学校においても、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業と、スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業に採択され、特色ある教育を展開するなど、様々な成果が表れています。

また、2014年10月には、本学理工学研究科の赤崎勇終身教授がノーベル物理学賞を受賞され、本学の研究力の高さを国内外に示すこととなりました。

一方、中等教育・高等教育を取り巻く環境に目を向けてみると、学齢人口の減少に加え、高大接続システム改革として、高等学校教育、大学教育及び大学入学者選抜を一体的に改革することが課題として挙げられるなど、各教育機関に対して、教育の在り方自体を根本から見直すことが強く求められています。

本学では、こうした環境変化を十分に踏まえつつ、開学100周年の2026年を目標年とする新たな戦略プランとして「Meijo Strategy-2026」(MS-26と通称) を策定しました。MS-26戦略プランでは、本学の創設から、今日まで築いてきた精神を「生涯学びを楽しむ」という言葉に託し、私たちが常に心に刻む価値観として掲げました。この価値観には、全ての学生・生徒が、本学の教育を通じて「学ぶ楽しさ」に気づき、人生を楽しみながら生涯学び続けてほしいという思いが込められています。社会が大きく変化する環境においては、必ずしも在学時の学びだけでは十分とは言えないことから、卒業後の人生も見据えた教育を展望しています。

この価値観を基本として、大学では「多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる」、附属高等学校では「『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』」を将来像として設定しました。大学では、キャンパス内外での様々な人たちとの出会いや経験を通じて、学生が学び続けられるコミュニティの場を提供し続けること、附属高等学校では、生徒に多様な経験を提供し、常に挑戦し続ける高校を目指すことが、その意味するところです。

本学は、2016年度に開学90周年を迎えます。ナゴヤドーム前キャンパスの開設、外国語学部(国際英語学科)の設置など、本学は社会からの負託に応えるため、着実に次のステージに移行しつつあります。開学100周年を見据えた「MS-26」を軸に、絶え間ない改革を推し進め、学生・生徒が本学を卒業したことに誇りを持てる大学や学校づくりを目指して取り組んでいきますので、引き続きのご支援とご協力をお願ひいたします。

2016年3月

I MS—26（2015年度～）戦略プラン



2015-2026

MS—26（2016年度～）戦略プラン [大学]

学長 吉久光一

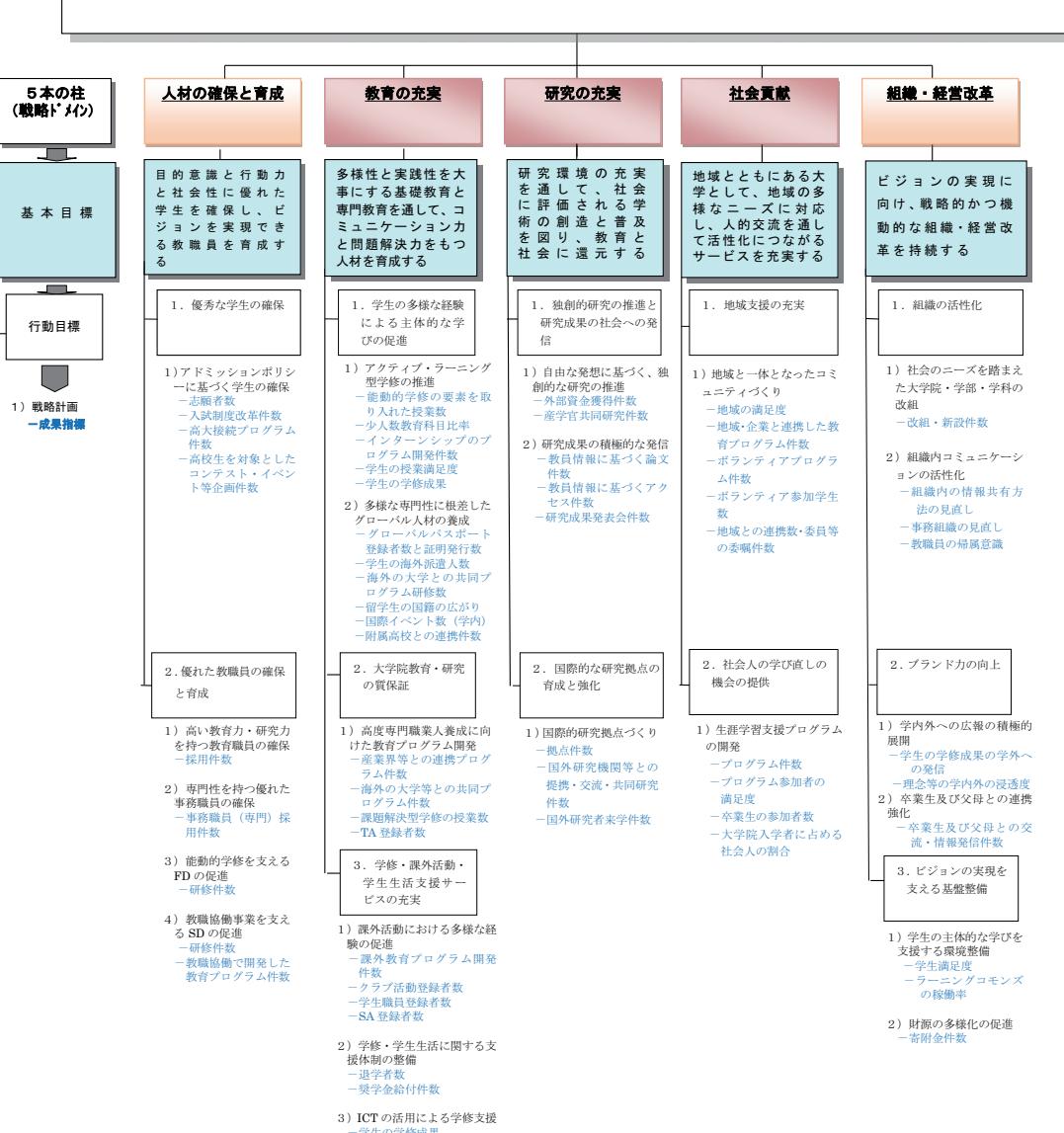
立学の精神：「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」

[大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観]
生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

Vision: 多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

Mission: (教育ミッション) 主体的に学び続ける「実行力ある教養人」を育てる
(研究ミッション) 「学問の探究と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する
(社会貢献ミッション) 社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

Key Performance Indicators (KPI) : 学生の大学に対する満足度、学生の学修成果、就職満足度、卒業後の帰属意識、教職員の帰属意識

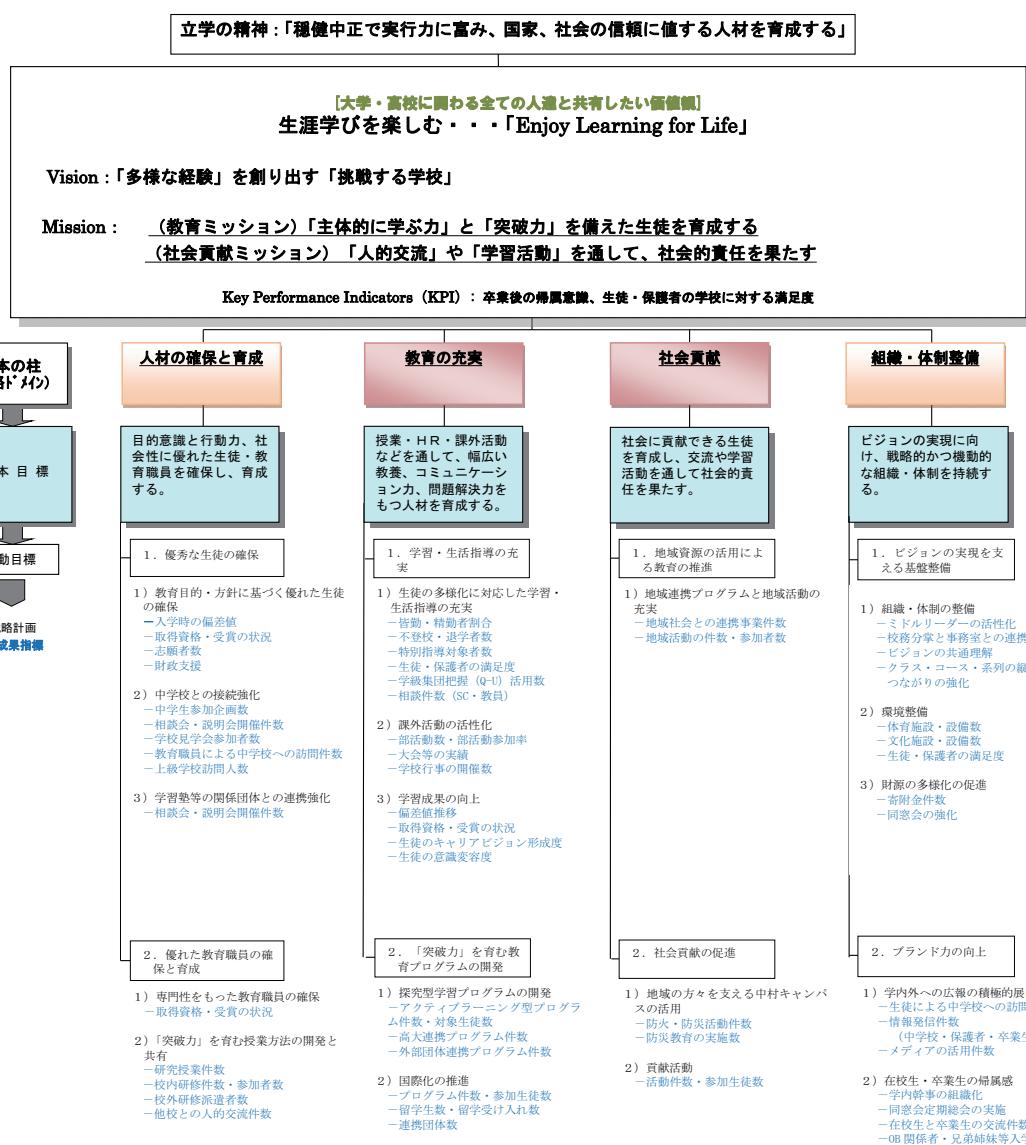


2015-2026

MS-26（2016年度～）戦略プラン[附属高等学校]



校長 岩崎 政次



II MS—26に基づく事業計画

本学が掲げる価値観「生涯学びを楽しむ」を踏まえ、2016年度は、次のテーマを重要課題として優先的に取り組みます。

■ 開学100周年（2026年）をマイルストーンとするビジョン

（名城大学）

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる
（名城大学附属高等学校）

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

（1）名城大学における優先課題

- 1) アドミッションポリシーに基づく学生の確保
- 2) 能動的学修を支えるFDの促進
- 3) アクティブ・ラーニング型学修の推進
- 4) 多様な専門性に根差したグローバル人材の養成
- 5) 課外活動における多様な経験の促進
- 6) 国際的研究拠点づくり

（2）名城大学附属高等学校における優先課題

- 1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保
- 2) 「突破力」を育む授業方法の開発と共有
- 3) 生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実
- 4) キャリア教育プログラムの開発
- 5) 探究型学習プログラムの開発
- 6) 国際化の推進



(3) 2016年度事業計画の施策

2016年度事業計画の施策を次のとおり掲げます。

1) 「人材の確保と育成」 分野

≪大学・高校≫

- 国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。

≪大学≫

- 能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。

- 教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。

≪高校≫

- 「突破力」を育む授業方法の開発や共有を推進する取り組みを支援する。

2) 「教育の充実」 分野

≪大学≫

- 学生の主体的な学びの促進に向け、アクティブ・ラーニング型学修の導入を支援する。

- ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーとの一貫性を担保した、体系的なカリキュラム運営を支援する。

- 内部質保証を前提とした自己点検・評価制度の再構築を支援する。

- 多様な専門性に根差したグローバル人材の養成に向けたプログラム開発等を支援する。

- 高大連携体制の充実を支援する。

- 学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。

- 教育に係る外部資金の獲得を奨励し、支援する。

- 大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。

- 課外活動における多様な経験の創出を支援する。

- 学生の満足度向上に向けた学生支援の充実策を支援する。

○キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。

○教職免許状取得に係る充実策を支援する。

≪高校≫

○生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実に向けた取り組みを支援する。

○「突破力」を育む教育プログラムの開発を支援する。

3) 「研究の充実」 分野

≪大学≫

○自由な発想に基づく、独創的な研究の推進を支援する。

○教員の研究シーズを発掘し、新しい製品やサービス・事業を生み出すため、企業及び各省庁等との連携を支援する。

○外部研究資金の獲得を奨励し、支援する。

○研究成果の社会への積極的な情報発信を支援する。

○国際的研究拠点づくりを支援する。

4) 「社会貢献」 分野

≪大学≫

○地域と一体となったコミュニティづくりを目指す取り組みを支援する。

○地域生涯学習プログラムに対する拠点づくりを支援する。

≪高校≫

○地域社会との交流促進を支援する。

5) 「組織・経営改革（組織・体制整備）」 分野

≪大学・高校≫

○「MS-26戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組む。

○ガバナンス体制の再構築に取り組む。

○本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。

○卒業生及び父母（保護者）との総合的な交流の促進を支援する。

○施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。

○投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支構造の改善を促進する。

≪大学≫

○外国語学部（国際英語学科）の設置と学びの環境整備に取り組む。

○学部・研究科等の再編等の検討に取り組む。

○組織マネジメントの観点から、教職協働を踏まえた組織改革に取り組む。

○人材のプロフェッショナル化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。

○社会的責任を踏まえた危機管理体制の構築に取り組む。

○都市情報学部、都市情報学研究科、人間学部及び人間学研究科のナゴヤドーム前キャンパスへの移転の準備を継続して取り組む。

○可児キャンパスの活用方法について、継続的に検討を進める。



■中期事業計画（2015年度～2018年度）

[大学]

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度 達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
						ロードマップ				
人材 の確 保と 育成	優秀な学生の確保 アドミッションポリシーに基づく学生の確保	■国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。	ターゲットとする高等学校からの多様で優秀な学生増加策の検討 高大接続答申を踏まえた入試制度の抜本的な見直し	A	野口副学長 入学センター	増加策検討	増加策実施	検証	増加策の検討と実施	
			多様な国々からの優秀な留学生の確保策の検討	A	野口副学長 入学センター	情報収集	学内体制検討	対応策の検討	学内体制による入試制度設計	
			多面的な視点からのアプローチによる教員数の検討 優秀な教員採用に向けた制度構築 (学長裁量人事、外国人・女性など多様化促進等の検討)	B	福島副学長 ★国際化推進センター	優秀な留学生の増加策の検討	検討	検討結果の履行	検討結果の実施	
			専門性を持った事務職員の確保 優れた教職員の確保と育成	B	野口副学長 総合政策部	教員数の確定	検討	教員採用に係る担当部門と連携して採用	採用と活用	
			■能動的学修を支えるFD(Faculty Development)活動の実質化策を支援する。	B	板橋理事 総務部	制度の構築	受け入れ体制の検討と構築			
	教職協働事業を進めため、事務職員の人材高度化を目指すSD(Staff Development)を支援する。 教職協働事業を支えるSDの促進	全学及び各学部におけるFDの実質化策の検討 事務職員のプロフェッショナル化に向けた体系统的なSD研修を構築	専門化項目に関わる事務職員の専門人材の採用 能動的学修を支えるFDの促進	B	板橋理事 総務部	専門人材の有効活用	受け入れ体制の検討と構築		各年度末に全学委員会で検証	
			各種取組の実施 SD研修制度の構築と運用開始	A	野口副学長 大学教育開発センター	実施・検証 計画(全学・学部等)	実施・検証 計画(全学・学部等)	実施・検証 計画(全学・学部等)	実施・検証 計画(全学・学部等)	
			SD研修制度の構築と運用開始	A	板橋理事 総務部	構築	構築	構築	SD研修の運用	

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
							ロードマップ			
	■学生の主体的な学びの促進に向け、アクティブラーニング型学修の導入を支援する。				野口副学長 ★大学教育開発センター 務セシター 務セシター ★総合政策部 教育開発 センター	能動的学修促進PJの審議結果を踏まえ検討 能動的学修促進PJの審議結果を踏まえ実施				
	増加策の検討		能動的学修形態 の実施件数	A						
	教育の質保証・PBL教育の推進	組織体制の整備	B		教育補助員 カリキュラム ICT	組織体制の検討	組織体制の整備			
	教育の質向上に向けた学修環境整備（カリキュラムのスマート化等）	教育補助員数 教育課程一覧 科目数 ICT活用授業 授業実施数 工夫数	B	野口副学長 学務セシター	教育補助員 カリキュラム ICT	各学部の合意 検討・企画・立案	各学部の合意 検討・企画・立案	改正手続 実施		
	■ディプロマボリシー、カリキュラムボリシー及びアドミッションボリシーとの一貫性を担保した、体系的なカリキュラム運営を支援する。				授業の実施単位	各学部の合意 検討・企画・立案	各学部の合意 検討・企画・立案	実施		
	カリキュラムの体系化を前提としたディプロマボリシー、カリキュラムボリシーの見直し	A	ボリシーの見直し	野口副学長 総合政策部 委員会	ボリシーの検証と見直し					
	■内部質保証を前提とした自己点検・評価制度の再構築を支援する。				FD委員会	FD委員会の審議結果を踏まえ、導入・実施				
	学習成果を可視化するアセスメント方法の開発 (アセスメントボリシーの検討、学修行動調査の開発、学修ポートフォリオ、ループリックなどの導入の可能性について検討) (FD活動における授業改善アンケートの抜本的見直しと実質化)	A	学習成果を可視化するツールの種類	野口副学長 大学教育開発 センター	FD委員会の審議結果を踏まえ、導入・実施					
	恒常的な本学独自の自己点検・評価制度の再構築（シンブルからつ実質的な制度を視野に）	A	制度の構築	野口副学長 ★大学教育開発 センター	認証評価対応					
	全学の教學マネジメント体制の再構築	A	教育課程の機関 レベルの検証体 制構築	野口副学長 総合政策部 委員会	制度の再検討 制度設計	制度設計	自己点検・評価活動			
	■多様な専門性に根差したグローバル人材の養成に向けたプログラム開発等を支援する。				現状の検証	制度設計	体制の再構築			
	多様な専門性に根差したグローバル人材の養成	A	海外派遣学生数	福島副学長 国際化推進セ ンター	計画の履行と検証					
	■高大連携体制の充実を支援する。	A	検討組織の設 置・開催件数	野口副学長 ★大学教育開 発センター 入学セシター	全学の方針確認 (準備期間)	全学で確認された方針に基づく検討組織の設置				
	附属高校を中心とした高大接続教育の在り方にについて検討 (高大接続審査も相野に)									

ドメイ ン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度 (2018年度目標)	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
							ロードマップ				
教育の充実	学生の多様な経験による主体的な学びの促進	■学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。	学生の多様な学びを促進する教育プログラムを開発	A	正課外学習プログラムの開発件数	野口副学長 大学教育開発センター	学習相談室等の正課外学習の運営・改善				
			基軸科目の充実化等による教養教育の指針に基づく再構築(キャリア教育、自校教育等の導入の可能性について検討)	A	教養教育連携推進委員会の開催数	野口副学長 ★大学教育開発センター 学務セントラル	改善・運営(教養教育連携推進委員会)	★(法・外国語)	★(理工)	★全学部	
			柔軟なアカデミックカレンダーの構築(秋入学、クオーター制度の導入も視野に)	B	検討会議回数 専人学部数	野口副学長 ★学務センター 新学術開設準備室	検討・企画・立案	各学部検討	実施		
			■教育に係る外部資金の獲得を奨励し、支援する。								
			教育に係る補助金への積極的申請	B	申請件数 採択件数	野口副学長 大学教育開発センター	準備(申請資格への対応)	教育改善の推進・申請			
	大学院教育・研究の質保証	■大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。	社会のニーズを踏まえ、高度専門職業人養成を念頭に入れた大学院教育の在り方について検討(学士課程との接続も視野に)	A	検討事項の具体化 件数	野口副学長 ★総合政策部 学務センター	方向性について検討	検討を踏まえた対応			
			■課外活動における多様な経験の創出を支援する。								
			課外活動における多様な経験の促進(ボランティア活動を含む)	A	参加学生数 の企画数	久保副学長 学務センター	学外調整 企画立案	プログラム実施・検証			
			学生参画の正課外プログラムを推奨し、拡大(学内のワークプログラム、学生企画によるプロジェクト、TA等)	A	参加学生数 プログラム数 活動報告書数	久保副学長 各センター	正課外プログラム全体像の検討	個別プログラムの開発・実施			
			■学生の満足度向上に向けた学生支援の充実策を支援する。								
学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	退学者の減少に向けた対策の検討と推進 (学生指導体制の充実、メンタルヘルス対応を含む)	入学から4年間の退学者の比率 面談回数 会議検討回数	A	久保副学長 ★学務センター 保健センター 総合政策部	データ整理 成績不振者判定 定基準設定	総合的学生指導企画・立案	各学部での実施			
			障がい者支援室の開設と委員会の開催件数	A	久保副学長 ★学務センター 保健センター 人学生セントラル キヤリーナ	面談の実施					
		障がい者支援策の実施									
	ICTの活用による学修支援	ICTの活用による全学的な学修支援体制(学修ポートフォリオの導入等)の検討と活用	B	検討委員会の設置 と開催件数	野口副学長 ★大学教育開発センター 情報センター 学務センター	設置準備	支援室の運営	検討開始			

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
教育の充実	学修・課外活動・学生支援の整備	■キャリア自己開発の観点から、進路・就職力を向上策を支援する。	就職に対する満足度向上に向けた対応	A 就職満足度	久保副学長 キャリアセンター	満足度指標についての検討			導入に向けた準備と導入	→
			大学院生、留学生に対する進路支援の一層の充実	A 就職満足度 就職率	久保副学長 ★キャリアセンター 国際化推進センター	満足度指標についての検討			導入に向けた準備と導入	→
			学生の資格取得支援の一層の充実	A 受講者満足度	久保副学長 キャリアセンター	満足度指標についての検討			導入に向けた準備と導入	→
		■教職免許状取得に係る充実策を支援する。								
		■自由な発想に基づく、独創的な研究の推進を支援する。	学修・学生生活に関する支援 体制の整備	B 体制の再構築	野口副学長 ★総合政策部 教職センター 学務センター	学制改革に係る情報収集 学部との協働体制構築に向けた教職の在り方の検討	学制改革を踏まえた対応 (検討時期は未定).....			
	研究の充実	■教員の研究シーズを発掘し、新しい製品やサービス・事業を生み出すため、企業及び各会場等との連携を支援する。	自由な発想に基づく、独創的な研究の推進	B 外部資金獲得件数 産学官共同研究件数・金額	磯前副学長 ★学術センター 総合研究所 財政部	検討			検討策の導入	→
		■外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を支援する。	自由な発想に基づく、独創的な研究の推進	A 研究費申請件数 共同研究件数 シーズ件数 特許件数	磯前副学長 学術センター	検討			検討策の導入と検証	→
		■研究成果の社会への積極的な情報発信を支援する。	自由な発想に基づく、独創的な研究の推進	B 科学研究費申請件数 各種競争的資金の獲得件数・金額	磯前副学長 学術センター	検討			検討策の導入と検証	→
		機関リポジトリの整備と公開	研究結果の社会への発信	A 論文件数・アーカイブス件数	磯前副学長 ★附属図書館 学務センター 学術研究支援センター	規定化された項目の開示 教員情報に基づく論文件数・アーカイブス件数	公開情報の整理		公開	→
		研究成果報告会(報告会を奨励し、学内外に知見を共有、発信を支援)	研究の充実	B 開催件数 参加者数	磯前副学長 学術研究支援センター				奨励と実施	→

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度 達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	ロードマップ	2019年度 以降
研究の充実	国際的な研究拠点の育成と強化	■国際的研究拠点づくりを支援する。	国際的な研究拠点づくりを推進 (LED、ナオカーボンを核とした拠点づくり、シーズの育成等)	A 拠点件数 国際研究機関等との連携・交流・共同研究件数 国外研究者来校件数	磯前副学長 ★学术研究支援センター				検討と推進		
	地域支援の充実	■地域と一体となったコミュニケーションを支援する。	社会連携の拠点整備 (組織づくりとミッションの明確化)	A 体制の整備	磯前副学長 渉外部				組織整備と遂行		
	社会貢献	■地域と一体となつたコミュニケーションを支援する。	地域をフィールドとした地域の課題解決型教育プログラムの調査及び実施部署との連携	A プログラム調査 件数	磯前副学長 ★涉外部 大学教育開発センター 学務センター				検討	実施	
組織・経営改革	社会人の学び直しの機会の提供	■社会人の学び直しを視野に入れた生涯学習支援プログラムの調査及び実施部署との連携 (サーティファイカードプログラムも視野に)	社会人の学び直しを視野に入れた大学院教育開発 (企業人の学び直しによるスキルアップ)	B プログラム調査 件数	磯前副学長 ★渉外部 大学教育開発センター 学務センター				検討	実施	
	生涯学習支援プログラムの開発	■外國語学部（国際英語学科）の設置と学びの環境整備に取り組む。	企業との連携を視野に入れた大学院教育開発 (企業人の学び直しによるスキルアップ)	B プログラム開発 件数	野口副学長 ★学務センター 大学教育開発センター 総合政策部				調査検討	企画立案	できる研究から実施
	社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組	■学部・研究科等の再編等の検討に取り組む。	社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組	A TOEIC 点数 ・新学部開設準備室入学者の率 ・偏差値	磯前副学長 ★新学部開設準備室入学センター				環境整備	英語力、教育成果等の定期的な検証と改善	
社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組	組織の活性化	全学的視点による既設学部・学科の再編及び新学部の設置の可能性について検討	全学的視点による既設学部・学科の再編及び新学部の設置の可能性について検討	B ポジショニング 指標の向上	野口副学長 総合政策部				検討	検討内容の具現化	
	理工学研究科の再編	■社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組	大学全体の適正規模（収容定員）の検討	A 定員充足率	野口副学長 理工学研究科 総合政策部				再編準備	開設	
	組織の活性化			A 規模の方向性の確定	板橋理事 総合政策部				規模の検討	検討を踏まえた対応	

ドメイ ン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
									ロードマップ	
組織・経営改革	組織の活性化	■「MS-26 戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組む。	理念の浸透を含む MS-26 ネジメントシステムの構築 (IR 体制の構築を含む) 行動指針の策定	A	システムの構築 野口副学長 MS-26 推進室			システムの開発と推進 指針の策定		
		■組織マネジメントの観点から、教職員力を踏まえた組織改革に取り組む。	事務組織体制の再構築 教員の教育研究業績の自己評価制度の検討	B	指針の策定 野口副学長 MS-26 推進室					
		ICT 戦略の構築 (ICT スマート大学の実現に向けた)	A 事務組織の再構築 B 制度の導入 ICT 戰略の構築 (ICT スマート大学の実現に向けた)	武藤経営本部 長 総務部 野口副学長 総合政策部 板橋理事 ★情報センター 一 総合政策部	再構築 制度の導入 戦略の構築			新事務組織体制 制度の導入		
		■人材のプロフェッショナリ化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。	組織内コミュニケーションの活性化 人事制度 (給与体系、人事考課制度) の見直し	B	新人事制度の運用 の開始 武藤経営本部 長 総務部	見直し			新人事制度の運用	
		■ガバナンス体制の再構築に取り組む。	組織内コミュニケーションの活性化 ガバナンスの見直しの検討	B	選考方法等の検証と見直し 板橋理事 総合政策部		検討	制度設計	新制度導入	
		■社会的責任を踏まえた危機管理体制の構築に取り組む。	組織内コミュニケーションの活性化 危機管理体制の再構築 (情報セキュリティを含む)	A	体制の再構築 板橋理事 総務部		体制再構築		新体制の運用	
		■本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。	学内外への広報の積極的展開 ブランド力の向上	B	教職員の帰属意識 武藤経営本部 長 涉外部				実施と検証	
		■卒業生及び父母 (保護者) との総合的な交流の促進を支援する。	インターネットプランディングの強化策の検討 卒業生 (高校教員含む) 及び父母との連携強化策の検討 (双方の情報交換、卒業生と在学生とのコミュニケーション構築、父母との協働による学生支援体制)	A	卒業生の帰属意識 武藤経営本部 長 ★涉外部 学務センター				実施と検証	

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度 達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
						ロードマップ				
		■施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。	キャンパスにおける環境保全の推進	A キャンパス内の環境保全の全体的な向上	久保副学長 総務部					
組織・経営改革	学生の主体的な学びを支援する環境整備	中長期計画に基づく再開発計画の推進	■新校会館の建設（校友会館・郵便局解体含む） ■4号館A棟・11号館改修 ■国際化施設設備整備 ■アプローチ整備前工事 ■研究実験棟IIIの建設 ■4号館Aの一階・B、C解体 ■春日井（鷹来）新本館の建設（現本館改修含む）	A スケジュール通りの実施 学生の満足度	野田理事 施設部					
	■都市情報学部、都市情報学研究科、人間学部及び人間学研究科のナゴヤドーム前キャンパスへの移転の準備を継続して取り組む。	キャンパスの実現を支える基盤整備	学生の主体的な学びを支援する環境整備	A ナゴヤドーム前キャンパスの教育・研究環境の整備（キャンパスのコンセプトの具現化）	学生の満足度	久保理事 新キャンパス開設準備室	移転準備	順次移転		
	■可視キャンパスの活用方法について、継続的に検討を進める。	ビジョンの実現を支える基盤整備		A 可見キャンパスに対する今後の対応の検討	板橋理事 ★総合政策部 施設部	検討				
	■投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支構造の改善を促進する。	財源の多様化の促進	新たな予算制度の構築	B 事業活動収入 (255億円以上) ★財政部 MS-26推進室	野田理事 ★★財政部 MS-26推進室	セグメント別損益分岐点作成 収入の多様化、支出の削減策提案 事業評価に基づく予算配布の検討				

部門 イン	行動目標	戦略計画	事業内容	達成度の指標 (2018年度目標)		責任者等	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度 以降
				A	B		総務部	総務部	総務部	総務部	総務部	総務部	総務部	総務部	
■国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。															
人材の確保と育成	1. 優秀な生徒の確保	1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保	○本校の理念に基づく生徒を確保するため、推薦枠等の入試基準の見直しを行い、入学者の質と量を確保	A 志願者数 偏差値	A 志願者数 偏差値	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○入学時の偏差値、資格取得・受賞の状況等をモニタリングし、分析することによって、入学者の質の確保に向けた施策を展開	A 志願者数 偏差値	A 志願者数 偏差値	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○中学生を対象とするコンテスト、イベント等を積極的に企画することで本校の認知度を高め、本校で学ぶことの関心や意欲を喚起	B 志願者数	B 志願者数	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○学校見学会の企画内容を毎年見直し、参加者数増に向けた施策を展開	A 志願者数	A 志願者数	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
		2) 中学校との接続強化	○中学校への訪問等を充実	A 中学校訪問件数 志願者数	A 中学校訪問件数 志願者数	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○学習塾等の関係団体との連携強化	A 志願者数 偏差値	A 志願者数 偏差値	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○学習塾等の関係団体との連携強化に向け、相談会・説明会のプログラム内容を工夫	A 志願者数 偏差値	A 志願者数 偏差値	総務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○採用時及び採用後の取得資格・受賞の状況をモニタリングし、在職中に奨励する資格を特定し、取得を支援	B 取得状況	B 取得状況	教務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
	■「突破力」を育む授業方法の開発や共有を推進する取り組みを支援する。														
	2. 優れた教育職員の確保と育成	1) 専門性をもった教育職員の確保	○研究授業の件数を増やし、ビジョンを実現する授業方法を継続的に開発	A 研究授業件数	A 研究授業件数	教務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→
			○「突破力」を育む授業方法の開発と共有	B 他校との交流件数	B 他校との交流件数	教務部	検討	定期的なモニタリング	施策の展開	企画立案	コラボレーション等の実施	2018年度入試から見直し	→	→	→

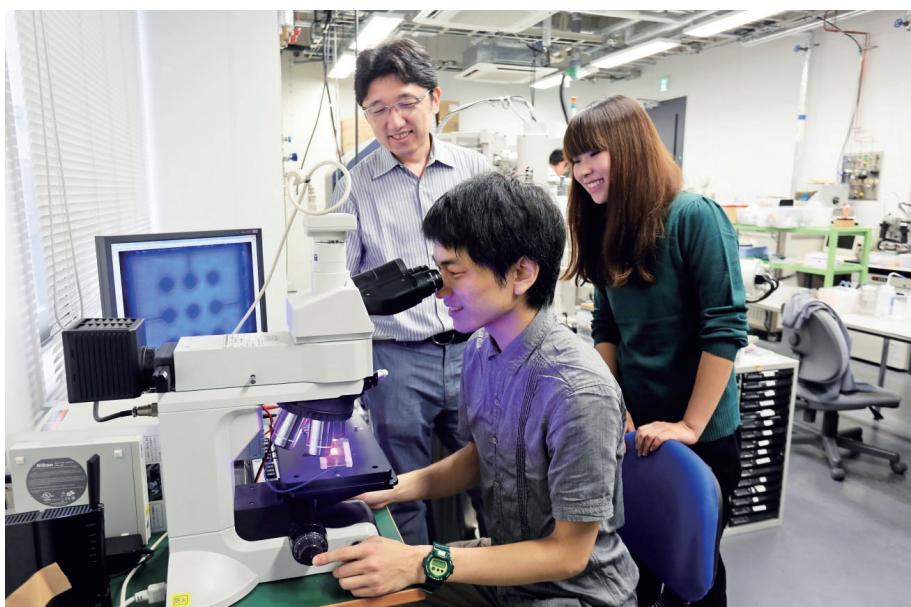
ドメイ ン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降
									ロードマップ	
教育の充実	■生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実に取り組みを支援する。		○総合的なカウンセリングの充実を図る為、支援体制を強化	A スクールカウンセラーサー相談件数 カウンセリング委員会開催回数	科長 生徒指導部	支援体制強化策の検討				支援
1. 学習・生活指導の充実	1) 生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実	○生徒の多様化に対応し、個々の生徒に応じた学習指導法を確立するため、各教科において教材・指導方法を工夫	A 学習成果	教務部	各教科において教材・指導方法を工夫					
	2) 課外活動の活性化	○3年間を視野に入れた年間の学習指導計画を定期的に見直し、家庭学習を改善	B 家庭学習時間	教務部	学習指導計画の定期的見直し					
	3) 学習成果の向上	○遅刻、早退、欠席の理由を把握し、現状の課題を教員間で共有した上で、基本的な生活習慣が身に付くよう指導 ○課外活動もビジュアルに掲げる「多様な経験」の一ひとつとして位置付け、参加率を向上させると同時に、学習との両立を実現	A 遅刻、早退、欠席件数 B 参加率 企画件数	科長 教務部	理由の把握と課題の共有 課外活動の奨励					
	■「突破力」を育む教育プログラムの開発を支援する。	○学習成果を可視化するための学習評価の方法を研究開発し、授業改善に活用	A 学習成果	進路指導部	評価方法の開発				授業改善	
2. 「突破力」を育む教育プログラムの開発	1) 探究型学習プログラムの開発	○「突破力」を育む探究型学習プログラムを開発する。 ・生徒の意欲を引き出す探究型学習プログラムを開発	A 学習成果 対象生徒数	教務部 教育開発部	プログラム開発 検証と改善策の検討				プログラム推進	
	2) 国際化の推進	○「突破力」を育む国際化を推進する。 ・「多様な経験」の観点により、国際交流プログラムを充実させ、参加生徒数を増加 ・留学生数、連携団体数を増加させ、生徒に多様な価値観と出会う場を提供	A 学習成果 対象生徒数	教育開発部 教務部	プログラム開発 検証と改善策の検討				プログラム推進	
	■地域社会との交流促進を支援する。									
社会貢献	1. 地域資源の活用による教育の推進	1) 地域連携プログラムと地域活動の充実	○地域に学ぶ視点に立った地域との連携プログラムを開発	B 数 対象生徒数	プログラム開発 検証と改善策の検討				プログラム推進	
	2. 社会貢献の促進	1) 地域の方々を支える中村キャンバスの活用	○中村キャンバスの活用による防火・防災に関する社会貢献活動を推進	B 活動件数	活動の推進					
		2) 貢献活動	○地域における社会貢献活動を積極的に進め、生徒の減災意識・社会性を高め、高校生活における主体性を養成	A 活動件数	防災教育の推進				活動の推進	

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	ロードマップ	2019年度 以降
		■「MS-26 戰略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組む。										
	1.) 組織・体制の整備	○MS-26 戰略プランに基づくマネジメントシステムの質の向上 ■カハナンス体制の再構築に取り組む。	A システム構築	校長・副校長 教頭								システムの開発と推進
		○高校運営会議を核とするマネジメント体制の確立 ○ミドルリーダーの活性化に向けた校内組織体制の整備 ○ビジョン、ミッション、教育目標等の共通理解に向けた教職員への情報発信、研修等を推進 ○クラス・コース・系列の継つながりを強化するための仕組みづくり ○学校の自己評価、学校関係者評価によるPDCAサイクルの実質化	A 体制の構築 A 体制整備 A 研修件数 A 体制整備	校長・副校長 教頭 校長・副校長 教頭 校長・副校長 教頭	体制の構築 体制整備 研修の開発と推進 仕組みづくり 現状の検証とシステムの構築							
	1. ビジョンの実現 を支える基盤整備	■施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。	A システムの構築	校長・副校長 教頭								システムの稼働
	2.) 環境整備	○ビジョンを実現するための教育環境整備について、財政状況を踏まえ た開発計画を検討・履行 ■投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び取支構造の改善を促進する。	B 環境整備	校長・副校長 教頭								計画の策定 計画の具現化に向けて検討
	3.) 財源の多様化の促進	○財源の多様化の視点から、寄附金募集活動を積極的に推進	B 寄附金件数 B 寄附金額									継続的な募集活動
		■本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。										
		○生徒による中学校への訪問件数を増やし、口コミによる広報活動を展開 ○中学校、保護者、卒業生それぞれのニーズに即した情報発信を積極的に進めると同時に、双方のコミュニケーションに進める ○同窓会名簿を充実	A 訪問件数 A 発信件数 B 名簿整備	総務部 総務部 学内幹事 学内幹事 学内幹事 文化祭時催物、文化講演会の実施								中学校への継続的な訪問 継続的なコミュニケーション 名簿整備 検討 実施
	2. プランド力の向上	1.) 学内外への広報の積極的 展開 ○文化祭時同窓会催物実施、同窓会文化講演会(仮称)実施を検討	B 施									

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度 (2018年度目標)	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	ロードマップ	2019年度 以降
組織・体制整備	2. プラント力の向上	■卒業生及び保護者との総合的な交流の促進を支援する。	○同窓会組織との連携を強化するとともに、卒業生と在学生とが交流する機会を増加 ○学内幹事の帰属感 ○90周年記念総会に向けて、コア幹事会を実施	B	交流件数	学内幹事 事務	検討				交流	

※緊急度：A 緊急度→最も高い、 B 緊急度→やや高い、

※ ★ : 主担当部署



連絡先

■ 名城大学 経営本部 総合政策部

TEL : (052)838-2005

FAX : (052)832-2317

E-Mail : oosousei@ccmails.meijo-u.ac.jp

